タラノキ（左上）、サンカクヅル（右上）、ヌルデ（中）、クリ（下）

しばしば里山に足を運ぶと吉

サンカクヅルやエビヅルが食べごろ

㉖ 里の秋

〝木の葉の舞い落ちる　七塚の秋　ムカゴにアケビにクリの実も　今年の里山は　大豊作　おいしい山飯　できるかな〟

今年は、植物にとって恵まれた自然環境だったのか、木の実のつきが良いようです。

ナナカマド、ガマズミ、ウメモドキの赤い実が目立っています。アケビ、ナツハゼ、サルナシ、ムカゴもたくさんついています。収穫時は九月中旬から十月中旬まで、ばらつきがあります。しばしば里山に足を運ぶ人は幸運にめぐり合うことができます。

先日、タラノキの花を写真に撮ろうと思って車を止めたところ、サンカクヅルがたわわに実をつけているのに出会いました。早速口に入れているうちに、タラノキの花を写真に撮るのを忘れるところでした。今、サンカクヅル、エビヅル、ヤマブドウが食べごろですが、よく似ているアオツヅラフジの実は食べないように！

私たちの食い意地をよそに、山裾には、ヌルデ、タラノキが白い花をびっしりと咲かせています。ことに、タラノキは〝俺たちの芽を採るときには、目の色を変えて芽をへし折って行く人間ども、俺の美しい花をよく見ろ〟と言いたげです。小さい虫たちは、タラノキの花と盛んに交流していますが、人間は薄情です。

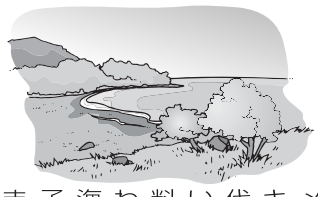
反省！ヌルデは、かぶれるばっかりに、木も花もよく見てもらえません。昔からよく利用されたヌルデノミミフシ（アブラムシの巣（虫こぶ・五倍子）がついているヌルデの木が時々ありますので、注意してみてください。既婚の婦人が歯を黒く染めた【お歯黒】に使ったと言われています。

（NPO法人七塚原自然体験活動研究センター　理事長　西村　清巳）

意外な野外のガイダンス

～海の生きもの編～

④ ヤマトウミヒルモ



海の中の種子植物

干潟の減少で少ない生育地

海の中に生えている生物でいちばん目立つものといえば海藻でしょう。コンブやワカメ、ヒジキなどが代表的で、いずれも料理に使われます。海藻は胞子で増えます。一方私たちが目にする野山の樹木や草花は種子で増えます。ところが海の中にも種子で増える植物が生えているのです。これらは海草と呼ばれます。海藻と海草は植物体のつくりや繁殖の仕方などが大きく異なっています。ただし、共通する点は光合成を行うことで、いずれも浅くて光の届きやすいところに生えています。

日本の陸上植物が五千種類以上あるのに対し、海中に生える種子植物である海草は数十種類といわれています。瀬戸内海では、イネのように細長い葉のアマモ、コアマモが代表的です。今回紹介するヤマトウミヒルモも海草の一種ですが、ほとんど見ることがありません。生育地が限られることと数が少ないためです。

ヤマトウミヒルモはトチカガミ科の植物です。この仲間は、ほとんどが陸上の湿った場所か水中に生育します。よく見るものとしては、金魚藻として水槽に入れられ、近年河川やため池で増えてきた外来種のオオカナダモがあります。本州沿岸域では、ヤマトウミヒルモだけが海中に生育します。

ヤマトウミヒルモは、五センチメートルに満たない柔らかい葉を地面から出す植物で、大潮のときに干出する砂泥の干潟に生育します。瀬戸内海にも点々と確認されており、広島県にも分布しています。数は少なく発見されると新聞記事になったりします。

大潮の干潮時、干潟にあらわれたヤマトウミヒルモ

ヤマトウミヒルモが生えているような干潟は、瀬戸内海では戦後土地造成や道路建設によって埋め立てられ、残り少なくなっています。残された干潟を守り、ヤマトウミヒルモが育つ海を後世に伝えたいものです。

（環境保全課　和田　秀次）

暮らしの身近なエネルギー　ガス

広島ガス株式会社　広報環境部
環境担当　番野哲夫

④ ガスでできる楽しい節約生活

小さくても毎日の継続が大切

厨房や給湯・暖房から

暑かった夏もようやく終わりました。今年、地球温暖化防止のため、皆様はどのような「省エネ」をされましたか。冷房温度を下げ過ぎない、不要な照明を消すなど節電対策にはいろいろ取り組まれたことでしょう。家庭で使用されるエネルギーのうち、約三割は厨房や給湯・暖房などで、ガスも多くご利用いただいております。そこで今回は、ご家庭でできる簡単な「省エネ術【ガス編】」についてご紹介します。

キッチン編

①ご飯はガスコンロで炊くと、早くて安い

炊飯は鍋や土鍋（炊飯専用鍋もあります）を使うと、ガスコンロでも驚くほど短時間（三合で二十二分）でお米を炊くことができます。しかもふっくらとおいしく炊きあがります。（CO_2削減量：年間で十七・九キログラム）

②お湯は必要な時に必要なだけ沸かす

お湯は、必要な時に必要なだけガスコンロで沸かすと、電気ポットで沸かして保温をするよりも節約でき、お財布にも地球にも優しい生活が送れます。（CO_2削減量：年間で二百四十キログラム）

入浴編

①シャワーは不要な時は止める

シャワーはとても気持ちがいいもの。でもお湯を出しっぱなしではいけません。こまめに止めると水もガスも節約できます。（CO_2削減量：年間三十六キログラム）

②入浴はできるだけ続けて入る

お風呂に入る時にはできるだけ続けて入りましょう。一緒に入ると話も弾みます。（CO_2削減量：年間六十四・一キログラム）

残り湯で洗濯すると水道代も節約でき、汚れも落ちやすいのですよ。

さて皆様いかがですか？まだまだあると思います。小さなことでも毎日の継続が大切です。できることから、今すぐにでも始めてください。

●省エネ結果の例（ガスで炊飯の場合）●

電気削減量（年間）	46．4kWh
CO_2削減量（年間）	17．9kg－CO_2
樹木のCO_2吸収量（年間）	1．3本分

※ガスコンロ＋炊飯専用鍋とＩＨ炊飯器を比較した結果
※米3合、200回／年として算出
出典：「広島ガス技術研究所」調べ

地域特性を生かしたユニークな取り組みが集結！

ひろしまわが町の温暖化対策　第５回“エコレシピ”オーディションを開催

脱温暖化センターひろしまでは、県内各地から地域特性を活かした脱温暖化の取り組みを集め、地域での実践活動の推進を図ることを目的に、今年で５回目となる“エコレシピ”オーディションを開催します。

さまざまな脱温暖化の取り組みを知ることができるほか、実践者と意見交換ができ、ユニークな知恵や技術などの情報が得られるチャンスです。ぜひご参加ください。

－問い合わせ－
脱温暖化センターひろしま　【（財）広島県環境保健協会内】
TEL：082-293-1512　FAX：082-293-1524

○日時：平成23年12月10日（土）10：00～16：00
○場所：広島ＪＡビル　10階講堂
○対象：地球温暖化防止活動に関心のある人
○主催：脱温暖化センターひろしま・広島県

入場無料